

<p>物品寄付のお願い</p> <p>お手元を書き損じハガキや未使用テレホンカードはございませんか？換金して子どもたちの給食や教育費、また、果樹苗購入に充当させていただきます。</p> <p>普通紙ファクシミリ、テプラ、デジタルカメラ（300画素くらい）なども探しています。中古をご寄附ください。</p>	 <p>2009年4月30日発行</p>	<p>NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会 (英文名略称・HANDS)</p> <p>227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11</p> <p>TEL:045-962-0824 FAX:045-962-1933</p> <p>E-mail: hands-ty@r07.itscom.net</p> <p>http://www.jca.apc.org/~hands/</p> <p>郵便振替口座 00210-5-72693</p> <p>(加入者名) ビラーンの医療と自立を支える会</p>
---	---	--

アグロフォレストリー1年目の村と5年目の村

住民の生計手段を確保しつつ、森林を広げていくアグロフォレストリー。サウスコタバト州ダグマ山系におけるふたつの事業地をモニターしてきました。

1年目の村:クハン

クハン自然農業組合から選ばれた15名は、バナナは寒暖差が激しい斜面に、ココナツや果樹はピーナツやモンゴ豆を植えた比較的なだらかな斜面に点々と植えました。どちらもフラミンジャを等高線上に植え、土壌流出を止めています。ココナツは1mくらいに成長していましたが、日陰を作るにはまだまだです。バナナは2mくらいに育ち、あと半年で最初の収穫が可能になります。



リナ・ボゴンさん(ティボリ民族・32才・女性)「研修によって『何を』『どのように』植え

ればいいのか知識を得ることができました。永年作物を植えることで将来に希望を持つことができました。」

ダヤト・ピナガヤオさん(マギンダナオ民族・43才・男性)「以前は仲買人にお金を借りて種や肥料を購入し、収穫後の売上から返済していました。仲買人を儲けさせるためだけに畑を耕していたようなものです。今、私は自由です。」

このプロジェクトはさらに15名の住民を選抜して、今年度も継続します。



5年目の村:バンカル

2004年の植林ツアーで3泊させていただいたバンカル村では、まっすぐに伸びたマホガニーの木立が濃い緑の影をバスケットボールコートに落としていました。「あれっこんなに涼しかったっけ？」というのが久しぶりの印象です。庭で採れたので、子どもたちがジャックフルーツをおやつに食べています。

当時のプロジェクトの受益者のひとり、フレッドさん(ティボリ民族・51才・男性)にこの5年間の話を伺いました。

「以前はこの土地は暑かったけど、木が増えて涼しくなりました。マンゴーは去年初収穫がありました。出荷するほどは実らなかったのに、子どもが食べました。ココナツは来年から収穫できます。肥料や農薬は使っていません。バナナは年2回収穫し、収入が4000ペソ増えました。これはハイスクール1年生の子どもの授業料、弁当代、交通費に

なっています。大きな助けです。この他に制服代、文具代を支払うことができました。」

受益者でなかった住民もバナナが収入向上になることに気づき、株分けして増やしたため、仲買人が町から買い付けに来ているのだそうです。当時、出荷するための交通費がかかることを心配していましたが杞憂でした。

果樹を植えることが収入向上になり、土壌流出を止め、地球温暖化を防止している。子どもたちは学業を続けることができる。親は農業で子どもの学費を支える自分に誇りを持てる。——果樹が実るまでの数年を耐えた後は、このような新しい村が待っています。(九島)